

喜界町図書館

図書館だより

喜界町大字赤連小字樋口前30番地



【通算206号】

2013(平25)年8月21日発行

TEL: 0997-65-0962

FAX: 0997-65-2523

e-mail: tosho-s1@town.kikai.lg.jp

「ブックスタート事業」

平成17年度から取り組んでいる「ブックスタート事業」は今年で9年目になります。

ブックスタートは、1992年に英国ブックトラストによって始められました。

生後7ヶ月になったお子さんを対象に保健センター「すこやか」の7ヶ月健診の日に図書館職員が出向いていき、親子で手遊びをしたり、読み聞かせをして楽しんだ後、絵本を通して親子のやさしいあたたかいひとときがもたれるようお願い、絵本を手渡す活動です。

図書館・保健センター・住民ボランティアなどが連携して行います。

一人ひとりが、大切にかけがえのない存在である赤ちゃん。すべての赤ちゃんが、生まれた時から大きな愛情に包まれて、幸せを感じながら生きることができれば、こんなにすばらしいことはありません。



☆とっても丈夫なブックスタートバックはご家族にお似合いです！
永く永くご愛用下さい。

おすすめ絵本・いないいないばー・いいおかお・ぴょん
みてみて！・ころころまるちゃんみつけた・ここよここよ



ホライズン

奄美の情熱情報誌

コーナーを設置しました。



お孫さんと一緒に

おはなし会に参加してポイントをもらいましょう！

保健福祉課の事業で、いろいろな事業に協力参加しポイントを貯めていくという事業があります。(65歳以上)

毎週土曜日 2時からのおはなし会にお孫さんと一緒に参加する事で1ポイントもらうことができます。

おじいちゃんおばあちゃんの出番です！！どうぞ御利用下さい。



☆おはなし会は毎週土曜日午後2時から

<9月のミニ映画>

7日 ふしぎないと

14日 お月様とうさぎ

21日 ゆうかなな十人きょうだい

28日 おにたのぼうし

図書館カレンダー(9月)

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

※  は休館日です。

《 図書館データメモ 》

・7月の貸出し冊数	3,978冊
・H25年度累計	17,091冊
・7月の利用者数(入館者)	2,277人
・H25年度累計	7,503人

《喜界島の歴史・伝承文化を探る》

～喜界島の集落名とその理由について③～ 7月号からの続き

牧野氏によると「久」は浜辺に位置し、「里」は山手に位置し麓に泉があり多くの人が集まり住む集落となっている、と記されている。どうして現在の位置と逆になっているのだろうか。井上氏の説によると城久は、12世紀から16世紀の城時代に海の彼方から侵入して来る外敵（琉球国や倭寇『わこう』＝瀬戸内海・北九州の海賊、中国人の密貿易者など）を防ぐ、中心的存在である「守りの城」の意味から「城久」と言う地名がつけられたと、記されている。

城久の集落は、小高い所にあり、四方八方見渡せる所で、外敵がよく見える場所でもある。琉球（沖縄）の第一尚氏の尚徳（しょうとく）王が喜界島を攻めてきたときの指揮所（屯所＝たむろする所）があったところだとも言われている。このようなことから、城久の地名がつけられたと思われる。

また、浜辺にある中里を考えてみると、古代の孝徳天皇の大化2年（646年）、「大化改新の詔（みことのり）」のその（三）に初めて「戸籍、計張、班田収授法をつくり、およそ50戸を「里」とし「里」毎に長一人を置く」と記されている。「中里」は、この頃に該当する。また、荒木と湾集落の中間に位置する集落であるため、「中里」の地名がつけられたものとも考えられる。

また、方言の「ナアトウ」、「ナアーツウ」からすると、北九州の宗像大社の三女神を祀る中津宮がある筑前（現：福岡県北西部）大島から古代人が喜界島へ渡来した場所であるため、中津（ナカツ）が中里に転訛（てんか）＝（なまって変わる）ことしたものとも思われる。この古代人については、九学会で喜界島の高地、滝川集落辺の人骨や生体を比較検討したところが筑前大島の古代人と似ているということである。

また、楡井範正氏の「姓氏と家紋」によると、小野津の語源は、山のすそ野やなだらかな傾斜地にある津（港）のことであるといっている。

荒木とは、新しく開墾した田を意味し、その地名は飛騨（岐阜）・能登（石川）・筑前、筑後（福岡）・丹波（京都）・伊賀（三重）等にもあるという。また、天正16年（1588年）熊本から長崎に移住した「荒木宗太郎」は、文禄初年に豊臣秀吉から朱印状を交付され、江戸時代の初期、自ら船に乗り込み安南（ベトナム）まで海外貿易に赴いた若者である。・・・・・・（9月号に続く）（文責：登山典壽）

：参考 文献：南島郷土誌～倭の古代からワチャシマ・ワンナムラまで～井上 忍著



まだまだ暑いですが・・・

“夏は夜。月の頃はさらなり、やみもなほ ほたるの多く飛びちがひたる。
（中略）雨などふるもをかし。”

と、清少納言は書いています。本町には、蛍は生息していませんが、夏の夜空に輝く星座を感じることができます。そして対照的に、闇がもたらす恐怖感や測り知れない深淵さも感じてみて下さい。



あたらしい本

《おとなの本》

《子どもの本》

- ・千両かんばん 山本 一力著
 - ・たぶんねこ 畠山 恵 著
 - ・死神の浮力 伊坂 幸太郎著
 - ・法服の王国 上・下 黒木 亮 著
 - ・ぼくの最高の日 はらだ みずき著
 - ・尖閣諸島と沖縄 沖縄大学地域研究所・サッカー少女サミー2
 - ・パノラマふしぎ探検図鑑
 - ・ハナちゃんのトマト
 - ・おぼけのふしぎなたび
 - ・うごく!昆虫最強ずかん
 - ・ケンタとアマノジャク
- ☆その他多数届いています。

よねちゃんのおすすめの一冊



失恋で突発性失語症になった主人公倫子。ふるさとに戻り、一日限定一組。メニューのない食堂をはじめた倫子。
そこでの出会いが、徐々に全てを変えていく。
食べることは愛することは生きること。日々の生活にちりばめられた宝石を皆さんも見つけてみて。
まずは、大きな声で「いただきます！！」